講演軍記

芥川龍之介

僕が講演旅行へ出かけたのは今度里見弴君と北海道へ行つたのが始めてだ。入場料をとらない聴衆は自然雑駁になりがちだから、それだけでも可也しやべり悪い。そこへ何箇所もしやべつてまはるのだから、少からず疲れてしまつた。然し講演後の御馳走だけは里見君が勇敢に断つてくれたから、おかげ様で大助かりだつた。

改造社の山本実彦君は僕等の小樽にゐた時に電報を打つてよこした。こちらはその返電に「クルシイクルシイヘトヘトダ」と打つた。すると市庁の逓信課から僕等に電話がかかつてきた。僕は里見君のラジオ・ド

ラマのことかと思つたから、早速（さつそく）電話器を里見君に渡した。里見君は「ああ、さうです。ええ、さうです」とか何（なん）とか云ひながら、くすくすひとり笑つてゐた。それから僕に「莫迦莫迦（ばかばか）しいよ、クルシイクルシイですか、ヘトヘトだですかときいて来たんだ。」と云つた。こんな電報を打つたものは小樽市始まつて以来なかつたのかも知れない。

講演にはもう食傷（しよくしやう）した。当分はもうやる気はない。北海道の風景は不思議にも感傷的に美しかつた。食ひものはどこへたどり着いてもホツキ貝ばかり出されるのに往生（わうじやう）した。里見君は旭川（あさひかは）でオムレツを食ひ、「オ

ムレツと云ふものはうまいもんだなあ」としみじみ感心してゐただけでも大抵（たいてい）想像できるだらう。

雪どけの中にしだるる柳かな

（昭和二年六月）

底本：「筑摩全集類聚　芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
　　　１９７１（昭和46）年６月５日初版第１刷発行
　　　１９７９（昭和54）年４月10日初版第11刷発行
入力：土屋隆
校正：松永正敏
２００７年６月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。